

すべり台での事故事例と防止対策

すべり台では構造上、高い所から落下する事故が報告されています。また、続けて滑ってしまい、下にいる子供に激突したり、カバンのひもや服装が手すりや突起に引っかかるなどの事故も報告されています。

すべり台事故の事例

事故事例 1

3歳の女児がすべり台から滑り降りたところ、すべり台の手すりの突起に毛糸で編んだポンチョが引っかかり、首を吊った状態になった。

事故事例 2

6歳の女児がなわ跳びの縄を首に巻きつけ、一方をすべり台の手すりに結んで滑ったため、首を吊った状態になった。

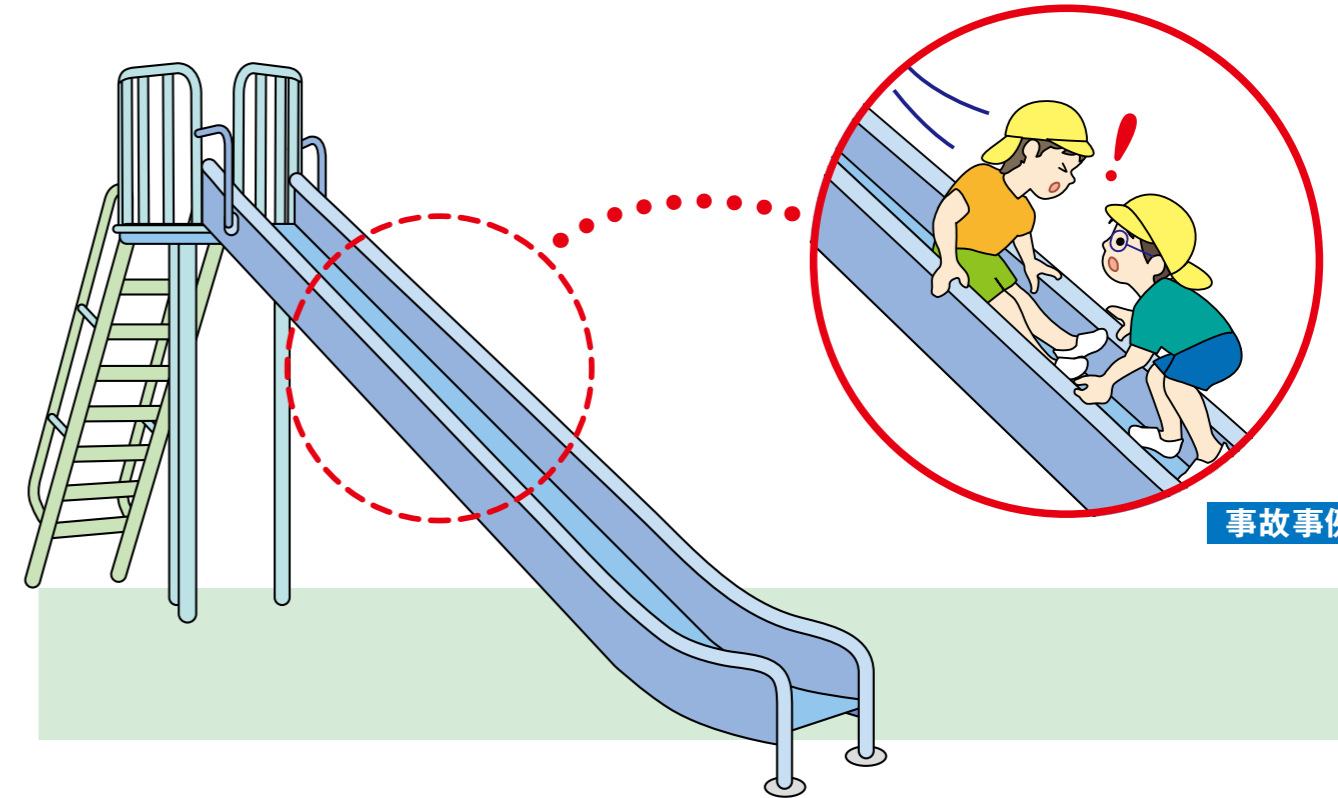
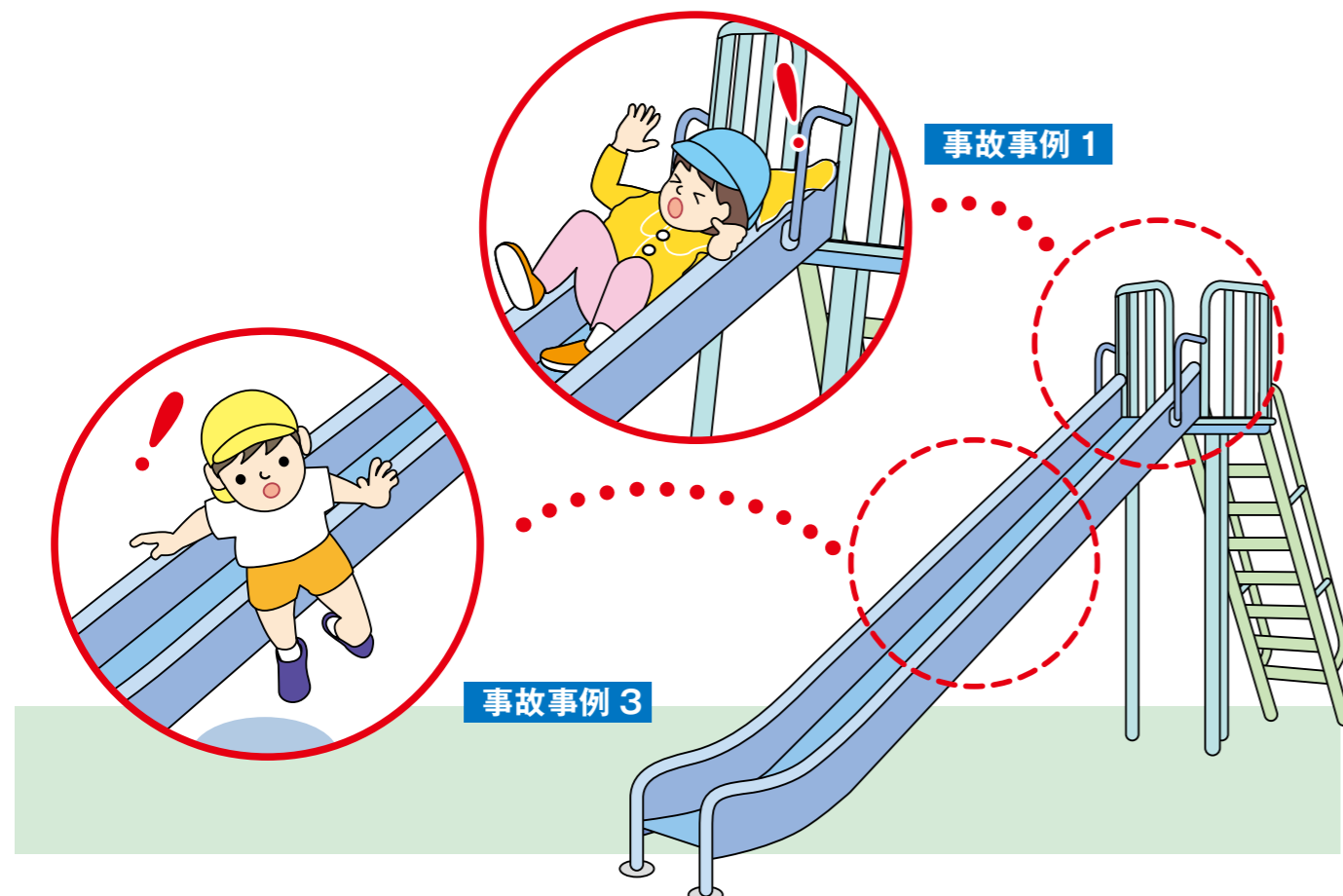
事故事例 3

4歳の男児がすべり台の斜面途中から飛び降りようとして落下、あごを打ちつけ、自分の歯で口を切った。さらに左手を地面についたため、手首の骨にひびが入った。

事故事例 4

5歳の男児がすべり台の下から逆に登ってきたところ、上から滑ってきた他の幼児にぶつかり、高さ1mの所からうつ伏せに落下、めがねの枠で眉の辺りを切り、傷跡が残った。

出典：災害共済給付制度（独立行政法人日本スポーツ振興センター）



すべり台事故を防ぐために

子供への指導

遊びのルールを教える

- ・順番を守る
- ・下に他の子供がいるときは滑らない
- ・高い所でふざけたり押ししたりしない
- ・しっかりつかまる

などの基本的なルールをしっかりと子供に教えましょう。

安全で身軽な服装で遊ばせる

マフラーやひものついた服装など、引っかかったり巻き付いたりする危険性のある服装では遊ばないように指導しましょう。

余計なものは持たせない

通園カバンや袋などを持ったり、身に着けたまま遊ばないように指導しましょう。

保育施設の対策

遊具の整備・補修を念入りに

- ・老朽化していないか
- ・すべり台の周りに危険なものがないか
- ・地面にコンクリートや石がむき出しになっていないか

年に1回以上は必ず定期点検を行い、必要に応じて専門の業者による点検をしてもらいましょう。

地面の素材を柔らかいものにする

落下した場合でも衝撃をやわらげるために、地面をウッドチップやゴム、人工芝等の柔らかく、衝撃を吸収する素材にして、大きな事故にならないようにしましょう。また、石やガラス片等の危険物の除去を徹底しましょう。